



内閣官房 内閣情報調査室  
内閣衛星情報センター  
理工系学生のための採用案内

# CABINET SATELLITE INTELLIGENCE CENTER

2023-2024  
採用案内



## 内閣情報調査室 内閣衛星情報センターを志望する皆さんへ

情報は的確な意思決定を行うために不可欠の要素ですが、内閣衛星情報センターは、「総理の目」として画像情報を収集、分析し、政府の重要施策の決定に貢献する機関です。当センターは、平成13年の設立以来、国家安全保障上の課題や自然災害への対応のため、日々、その持てる能力を遺憾なく発揮してきましたが、画像情報の重要性、有用性については、2022年からのロシアによるウクライナ侵略をはじめ、一部の専門家のみならず一般の人々にも広く認識されるようになったところです。

当センターが有する能力は、既に世界でトップレベルにあると高い評価を博していますが、今後益々増大する画像情報に対する期待に応えていくためには、より高性能の衛星の開発や、画像処理・分析能力の向上などに不可欠な最先端の科学技術に関する素養を身につけた若く気概のある皆さんの力を必要としています。

宇宙というロマン溢れる空間を舞台に、国家、そして国民の安全と安心のために自らの技術力を活かすことができる「日本で唯一無二の職場」と自負する当センターで、皆さんとともに働ける日を楽しみにしています。

内閣衛星情報センター所長  
納 富 中

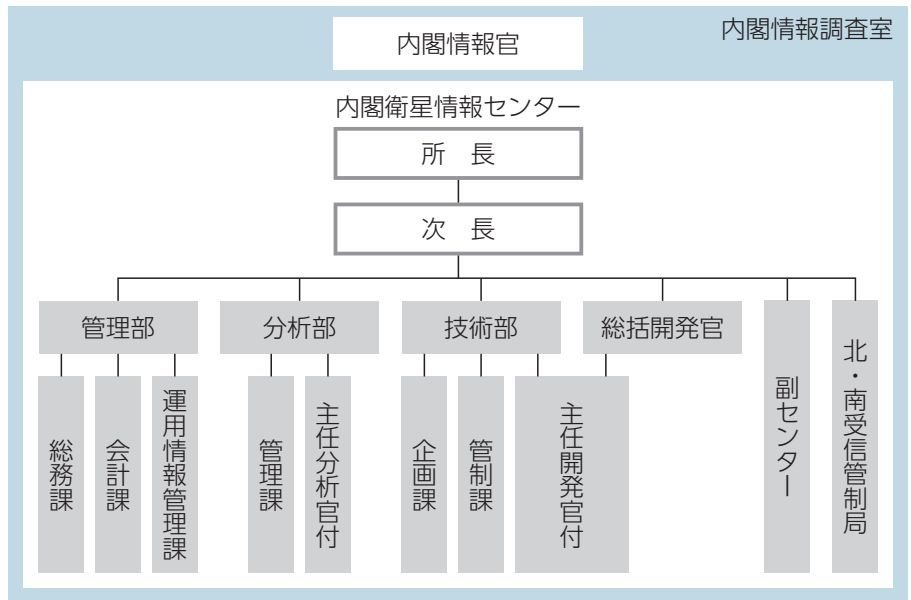
## 内閣情報調査室 内閣衛星情報センターとは

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。

現在、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機体制を確立しています。

今後とも機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化し、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関として、国民に対し貢献できるよう努めていきます。

## 内閣衛星情報センター組織図



## 内閣衛星情報センターの「あゆみ」と「これから」

平成10年8月	北朝鮮が発射した弾道ミサイル「テポドン1号」が日本上空を通過	
平成10年12月	情報収集衛星導入に係る閣議決定	
平成13年4月	内閣衛星情報センター設置	
平成25年4月	情報収集衛星4機体制(光学衛星2機、レーダ衛星2機)確立	
令和2年2月	情報収集衛星光学7号機打上げ(H-IIAロケット41号機)	
令和2年11月	データ中継衛星1号機打上げ(H-IIAロケット43号機)	
令和3年4月	内閣衛星情報センター設立20周年	
令和5年1月	情報収集衛星レーダ7号機打上げ(H-IIAロケット46号機)	
令和5年度冬期(予定)	情報収集衛星光学8号機打上げ(H-IIAロケット)	
令和6年度(予定)	情報収集衛星レーダ8号機打上げ(H-IIAロケット)	
令和8年度(予定)	情報収集衛星光学多様化1号機打上げ(H3ロケット)	
令和9年度(予定)	情報収集衛星光学9号機打上げ(H3ロケット)	
	情報収集衛星光学多様化2号機打上げ(H3ロケット)	

※情報収集衛星の打上げ実績・予定は令和5年11月時点から過去・未来約5年間のものを記載

## 情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、図のサイクルで行います。このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。



官邸 (内閣広報室提供)



受信管制局のアンテナ

## 情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけではなく、情報収集衛星システムの開発\*も独自に行っています。

情報収集衛星システムは、宇宙空間から地上の関心対象の撮像を行う衛星システムと、画像処理等を行う地上システムに分類されます。

情報収集業務を支えるために、運用者のニーズを踏まえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

※ 内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。

開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。

具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズの調査、開発スケジュールの進捗管理等があります。

内閣衛星情報センターでは、現在年間800億円の予算が使われています。これは政府の宇宙関係予算の中で最大のものです。

## 加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が起こったとき、内閣衛星情報センターでは自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年に公開を始めてから令和5年までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等8件の災害で、合計153件の画像を公開しています。

# 内閣情報調査室 内閣衛星情報センターの組織

## 管理部 — 全体を俯瞰する —

内閣衛星情報センター全体の業務が円滑に行われるよう内外の関係機関と連絡調整を行っていくことが主な業務です。たとえば、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画を他の政府機関と相談しながら立案したり、国会審議の対応や国会議員への説明を行ったり、日本国民に対して情報収集衛星が果たしている役割の理解を深める取組を進めたりしています。また、内外のニーズを踏まえて、情報収集衛星の性能を最大限活用し、どの地点を、どのように撮像するか計画(撮像計画)を日々作成しています。

## 分析部 — InformationからIntelligenceへ —

情報収集衛星により入手した画像の判読・分析と報告書の作成が主な業務です。

安全保障関連や大規模災害等の危機管理事案が発生した際は、いち早く情報収集・判読分析を行い、関係機関に提供しています。また、普段から衛星画像や公開情報を収集し、各地の情勢を観察し、緊急事態が発生しても速やかに情報の収集・分析にとりかかれる態勢を整えています。

このほか、判読・分析を行う分析官の能力を高めるための判読分析に関する教育や、判読分析を円滑・効果的に行うための調査研究も行っています。



### 分析結果の例

左図は平成25年(2013年)11月のフィリピンにおける台風の被害状況についての分析結果です。

この分析結果は、台風で浸水した箇所を地図上に示した上で、滑走路には影響がないことを示しています。これにより、政策決定者は当該空港への支援物資の空輸や人員の派遣といったことを政策の選択肢に含めることができるようになります。

このような危機管理における分析の他にも、必要に応じて外交・防衛等の安全保障に関する対象の判読及び分析を行い、分析結果を省庁等へ配布しています。

H-IIA43号機©三菱重工

## 技術部 — 宇宙へ送る、宇宙から受け取る —

衛星及び地上施設の開発、衛星打上げ、衛星及び地上施設の管制・管理が主な業務です。

開発業務は、運用上の問題点や要望、最新の技術動向を踏まえた衛星及び地上施設の仕様と設計を検討し、その結果をもとに製造企業と調整しながら推進しています。

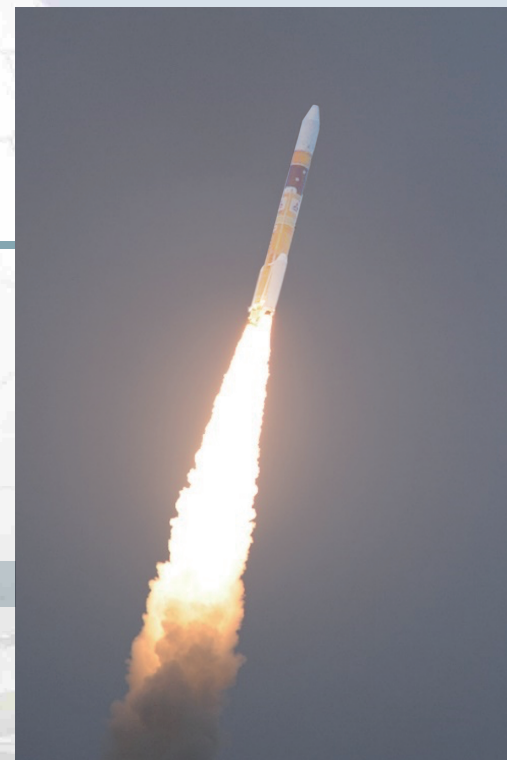
開発した衛星は、関係機関や企業と協力して打ち上げます。

衛星及び地上施設は、機能が問題なく発揮されているかを常にチェックしています。また、運用中も性能の維持向上の取組を続けています。

### 情報収集衛星打上げ時の対応

右図は令和2年(2020年)11月の種子島宇宙センターにおけるH-IIAロケット43号機によるデータ中継衛星1号機打上げ時の写真です。

特に技術部では打上げ時の現地情報連絡等の対応のため、関係者限定の特等席からロケット打上げを見ることもあります。



## 副センター・受信管制局

副センター及び北・南受信管制局には、情報収集衛星とデータを相互に通信するためのアンテナが設置されています。アンテナはレドームと呼ばれる外殻に囲われています。このアンテナを通じて情報収集衛星の管制や状態の確認を行ったり、アンテナ自体の維持管理（健全性確認、部品交換など）を行っています。

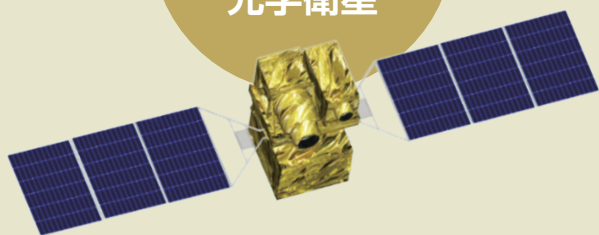
副センターは中央センターのバックアップ機能を有しているため、受信管制業務だけではなく、撮像計画の作成、画像処理、画像の判読・分析といった、通常中央センターで行う業務も行うことが可能です。

また、副センターは情報収集衛星システムの開発に係わる試験施設としての役割を有しています。



副センター(茨城県)

### 光学衛星



デジタルカメラ写真のような画像を撮影します。

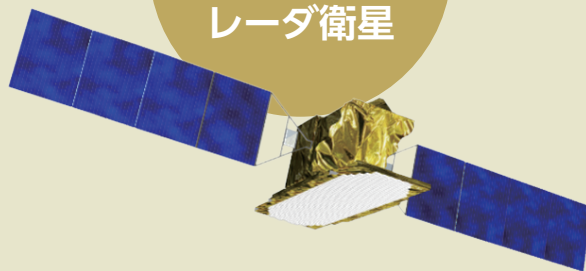
人間の目に映るものと同じ画像なので見やすいですが、雲に覆われていたり、太陽の光が当たっていない時間帯の撮像には向いていません。

### 光学衛星画像



内閣官房HPで公開されている情報収集衛星加工処理画像

### レーダ衛星



地球の表面に自ら電波を照射し、その反射波を検出して、画像に加工します。

レーダ画像を判読するためには、電波の反射を読み解く技術が必要ですが、雲に覆われている地域や夜間でも撮像できるという大きなメリットがあります。

### レーダ衛星画像(民間の衛星)



(C)2019 DLR, Distribution Airbus DS/Infotera GmbH, Sub-Distribution[PASCO]

**1 国家公務員(内閣衛星情報センター)を希望したきっかけを教えてください。**

衛星センターに入庁したいと思い、国家公務員試験を受けました。元々、宇宙関係のプロジェクトにおいて、上流工程に係る仕事に携わりたいと考え、現在、日本の宇宙事業は国主導であることから省庁・行政機関を調べていく中でセンターを知りました。  
【電気・電子・情報区分・女性】

利益を求めず公共のために仕事をするということが自分の性格にあっていると思ったからです。  
【物理区分・女性】

父親が公共性が高い機関に勤めており、国家公務員の仕事に興味を持ちました。また、衛星センターでは理系の知識を生かして国のために働くことができることに魅力を感じ志望しました。  
【機械区分・男性】

高校2年生の時に「安定」という観点で漠然と公務員に関心を持つようになりました。その後大学2年生で国家公務員の仕事に関するセミナーに参加した際、大規模な事業に携わることができる点、様々な民間企業と協力してプロジェクトを進めていくことができる点に魅力を感じ、国家公務員になりたいと考えるようになりました。  
【電気・電子・情報区分・男性】

**2 現在担当している業務内容を教えてください。**

次期地上システムの開発及び機能増強に伴う委託業者及び運用部署との調整業務を担当しています。  
【電気・電子・情報区分・女性】

行政文書管理の他、センター全体の技術的案件的調整、英語研修の取りまとめ等を担当しています。  
【物理区分・女性】

衛星打上げ後の初期運用業務を担当しており、関連組織との調整が多いです。  
【機械区分・男性】

分析業務に係る各種新規技術の導入について、契約先との打合せ調整及びプロジェクト管理をしています。また、その他新規契約に係る資料作成、実施伺い等についても担当しています。  
【電気・電子・情報区分・男性】

**3 採用後、改めて思う内閣衛星情報センターの魅力をお教えてください。**

衛星の開発、運用、維持管理という全フェーズに携わることができる点です。若手のうちから、自分の担当業務がしっかりとあり、様々な業務に携わることができます。業務の中で、複数の部署の方々と接することができることも魅力の1つだと思います。  
【電気・電子・情報区分・女性】

研修が多く、大学で専門的なことを学んでいなくても活躍できる場がある点です。また、総理報告等、国の政策決定を支えるための資料の作成等があり国のために働いていることを実感しやすい点も魅力です。  
【物理区分・女性】

公務員としての業務だけでなく人工衛星に関する様々な分野の最新技術を知ることができる点です。また、衛星センターは、様々な省庁からの出向者がおり、各省庁特有の文化に触れることができます。その中で自分に一番適している働き方を模索しやすいという点も魅力です。  
【電気・電子・情報区分・男性】

**4 受験生の皆様へメッセージをお願いします。**

就職後、「思い描いていた社会人生活と違う…」とならないよう、早いうちに「自分のやりたいこと」・「省庁/企業の職務内容」の理解を深める作業をすることをお勧めします。両者のマッチング度が高ければ高いほど、就職後、やりがいを感じながら仕事ができると思います。説明会や座談会などに参加したりもして情報収集することをおすすめします。  
【電気・電子・情報区分・女性】

なかなか耳にしにくい機関で、あまり日の目を浴びない仕事ですが、やりがいを感じられることは多いと思います。若手は女性職員も多く、有休などもとりやすく働きやすい職場です。  
【物理区分・女性】

技術系職員の声①

**質問 技術系職員として内閣衛星情報センターで働くやりがいほどのような所にあると思いますか。**

情報収集衛星システムの開発から運用、地上局のメンテナンスといった維持管理まで、情報収集衛星を用いた情報収集に関する業務に多方面から携われることです。部署異動を経て様々な業務を経験することで、理解していたもりの業務について新たな発見があることも多く、より情報収集業務を深く知ることができます。これは、衛星センターの業務の性質、組織の規模だからこそ体験できることだと思います。  
【平成28年採用(物理区分)・男性】

衛星センターは設立から20数年と比較的歴史の浅い組織ではありますが、その分析プロダクトや衛星画像は内外から高く評価されるに至っており、予算規模も拡大するなど、今後ますます衛星センターの存在価値は高まるものと期待されています。そのような期待を背負う日本唯一のIMINT専門機関である衛星センターで、開発や分析・運用はもちろん、下支えする管理部門等の様々な業務に携われることが魅力であり、やりがいでもあります。  
【平成28年採用(物理区分)・男性】

## 技術系職員の声②

### 質問

技術系職員に今後更に求められる能力や資質はどのようなものだと思いますか。

技術系職員に限った話ではないですが、将来の自分自身や組織のあるべき姿を描き、それらをどのように達成するか考え、行動できることだと思います。例えば、開発業務では、将来衛星システムの検討から運用開始まで、長期にわたる複雑なプロジェクトを調整し進めていく必要があるため、それらを達成するために、設定したゴールから逆算して進めていけることが重要です。

【平成28年採用(物理区分)・男性】

開発業務においては、(1)情報収集衛星システム利用者の漠然とした機能改善要望を、開発企業が理解できる機能要求としてまとめる必要があり、システムインテグレーター的な資質、(2)技術仕様書等の企業に対する要求文書の作成や開発企業が提出する大量の設計書等の確認のため、技術文書の作成能力及び多くの文書を読み解く能力、(3)複数工程のプロジェクトを包括的に確認するプロジェクト管理能力が求められます。また、運用業務においては、(a)決められた運用手順の把握及び常に改善する向上心、(b)不具合が発生した際、原因をいち早く察知し、迂回対応を取り運用を継続させる能力が求められます。この他、全般として技術系職員に期待されていることは、①相反する利害が発生するものを調整しまとめる能力、②難解な技術用語を平易でわかりやすい文書で説明する能力、③常に技術動向をウォッチし適応可能性を考える能力が求められます。

【平成13年選考採用・男性】

## よくある質問(理工系学生向け)

### ◎ 内閣衛星情報センターは、技術系と行政系で採用は別ですか？

**A** 内閣情報調査室の採用は、全区分と内閣衛星情報センター技術系があり、後者は内閣衛星情報センターが窓口となっています。どちらで採用されても双方での勤務があり得ますが、内閣衛星情報センター技術系で採用された場合は、主に内閣衛星情報センターを中心に勤務することになります。

### ◎ どの試験区分を採用しているのですか？

**A** 試験区分について制限はありません。幅広い知識・経験を持った職員を求めています。

### ◎ 総合職の採用はありますか？

**A** 一般職のみの採用となっています。

### ◎ 採用された場合、勤務場所はどこになるのでしょうか？

**A** 内閣衛星情報センターには地方組織として副センター、北・南受信管制局がありますが、職員の90%以上は東京の中央センターで働いており、東京勤務の期間が多くなります。

### ◎ 内閣衛星情報センター以外の勤務はありますか？

**A** 少数ではありますが内閣情報調査室の内閣衛星情報センター以外の部署での勤務や、一部省庁への出向を行っています。また、衛星開発関連企業との間で人事交流を実施しています。

### ◎ 大学で宇宙や人工衛星について学んでいないのですが、やっていけるでしょうか？

**A** 採用時点で宇宙や衛星の専門的な知識は必須ではありません。採用後の研修や業務を通じて知識を身に付けていただければ良いと考えます。

### ◎ 採用された技術系職員はどのようなキャリアパスになるのですか？

**A** 採用後は管理部、分析部、技術部のいずれかに配属され、基礎的な行政事務手法を学ぶとともに、ローテーションを行い、当センター業務の全体像を把握していきます。その後各職員の希望及び適性に配慮の上、それぞれの専門分野を決めていきます。なお、採用区分と専門分野が同一になるとは限りません。

## 技術系職員から受験生へのメッセージ

2022年から続くロシアによるウクライナ侵略の実態が商用衛星画像を用いられながら報道されたように、衛星画像の有用性が示されたことは記憶に新しいところです。衛星センターは、衛星画像を専門的に取り扱う機関として、衛星画像を政府の重要政策の決定や情勢判断のために活用していますが、このような厳しい国際情勢を踏まえて今後も更なる貢献が求められています。

衛星センターの活動は、業務の性質上、地道で脚光を浴びる機会に恵まれませんが、それでも我が国を支える屋台骨を形作ります。人工衛星や安全保障等に関わる業務について少しでも関心があれば、覗いてみて下さい。

【平成25年採用(電気・電子・情報区分)・男性】





〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町9-13

TEL 03-3267-9564 (採用専用)

JR総武線・東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 徒歩10分

